

コロナ禍を照らす絆を結ぶ 協働で目指す新しいまちづくり

町民の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新年を健やかに迎えのことと心からお喜びを申し上げますとともに、平素からの町政全般にわたる温かいご支援とご協力に対して厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の脅威によって令和3年の成人式が中止となり、夏のあゆまつりのにぎわいも失われるなど、長く続くコロナ禍への不安を常に感じながら過ごした一年だったように思います。一方で、国が推し進める2回のワクチン接種や教育現場での一人一台のタブレット端末整備を始めたこと、さまざまな対策を町として着実に実施できたことは、このコロナ禍を乗り切るための大きな前進となりました。以前の日常を取り戻すにはまだまだ時間が必要ですが、国の地方創生臨時交付金を有効に活用しながら、皆様に寄り添った支援を通して、共にこの危機に打ち勝ちたいと考えています。

また、医療従事者や施設職員の皆様の尽力によって救われた命が数多くあったことを私たちは決して忘れてはなりません。この新しい年を無事に迎えることが

できたことに感謝し、その喜びを分かち合いたいと思います。

さて、本町では、町民の皆様と共に作り上げた「第7次甲佐町総合計画」に基づいた新しいまちづくりが昨年4月から始まりました。10年後のまちの未来を描いた本町最上位に位置するこの計画では「人と自然が共生し、にぎわいを育む安全・安心・快適を実感できるまち」を基本理念として掲げています。緑川の豊かな流れが育んだ歴史や文化が今も息づくこのまちで、わたしたちは先人たちの残した知恵と工夫を活かしながら暮らしてきました。豊かな自然や歴史、文化、人情といった、日常風景を形作るかけがえないものがこの地にはあふれています。町では、これらを大切にしながら、住民一人一人が日々の暮らしに小さな幸せを感じ、住み続けたくなるようなまちづくりを進めています。

そのような中、昨年に誕生した国史跡「陣ノ内城跡」は、ヒトとモノが交わる緑川流域の中心地として重要視されてきた甲佐の歴史を象徴するものです。中世から近代に至る益城地域の歴史を語る上で欠かせないこの史跡を、本町を代表するやな場や甲佐神社、大井手川が流れ

る商店街の街並みを始めとした町内外の地域資源と連携させながら、コロナ禍で求められる新しいかたちのにぎわい創出につなげていきたいと考えています。

また、昨年、美里町と結んだ連携協定は、双方の共通資産である緑川流域の魅力を最大限活用するための架け橋となるものです。私たちはこの2年、かつてないほど交わりを制限された時間を過ごしてきました。長く暗いコロナ禍を照らすのは、やはり人と人との交流で生まれる絆やそこで交わされる心の温もりではないでしょうか。この協定で結ばれた2町がさまざまな形で、心が通った関係を築いていければと思います。



甲佐町長 奥名 克美

人口減少、少子・超高齢社会により地域コミュニティの維持がますます困難となる中、町民の皆様との協働は、新しいまちづくりに必要不可欠です。本町のまちづくりに参加していただいている町内外の皆様と今一度絆を結び、新たな出会いや交流を楽しみながら、職員も一丸となつてこの苦難を乗り越えるべく全力を尽くす覚悟です。

終わりに、町民の皆様、議会の皆様には、本年も変わらぬご指導とご支援の程をよろしくお願い申し上げますとともに、町民の皆様にとりまして輝かしい一年となることを祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

町民の声を 届けるために

甲佐町議会議長

宮川 安明

町民の皆様、明けましておめでとうございます。

令和4年の年頭にあたり、甲佐町議会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、新たな期待と希望をもって、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から町議会に對しまして温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は一昨年にも増して、生活や経済活動に多大な影響を与えました。

そのような中、本町においては、ワクチン接種が5月から始まり、町民の接種対象者の9割を超える方が2回目の接種を終えられ、また、感染リスクを避ける皆様の行動により、感染拡大は落ち着き



を見せておりますが、年末には、新たな変異株が発生するなど、まだまだ予断を許さない状況でもあります。

町議会といたしましても、人口減少や超高齢社会を迎え、さまざまな課題も出てきている中、新型コロナウイルス感染症による生活への影響緩和政策など町民の一人一人が安心して、幸せな日々をお過ごしただけですよう、一層の努力を重ねて参る所存でございます。

本町の基幹産業である農業や商工業の振興、緑川を活かした観光振興など地域経済の振興政策や甲佐の魅力を活かした定住政策など、より一層推し進める必要があると考えております。

町民の皆様の声に耳を傾け、町民の皆様の代表であることを強く自覚し、日々研さんに努め、開かれた議会づくりを目指していききたいと思っております。

夢と希望あふれる 「甲佐の教育」を 目指して

甲佐町教育長

蔵田 勇治

明けまして、おめでとうございます。

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。日頃から本町の教育行政に温かいご理解とご支援、ご協力を頂いておりますことに衷心より感謝申し上げます。

町民の皆様におかれましては、新たな期待や希望と共に新春を迎えられていることとお慶びを申し上げます。

さて、コロナ禍の本町におきましても、学校教育や社会教育を始め、体育・スポーツ活動、文化活動など広い分野で計画変更や活動中止を余儀なくされております。そのような中にも、未来への明るい光を予感できる出来事もありました。

一つは「陣ノ内城跡」が昨年10月に国指定史跡となったことです。今後、天然記念物「麻生原のキンモクセイ」に次ぐ

本町2例目の国指定文化財となった「陣ノ内城跡」を甲佐の財(たから)として大切に保存して行かねばなりません。また、子どもたちのふるさと教育にも大いに活用したいと考えています。

もう一つは、国のGIGA(ギガ)スクール構想に基づき、本町の全小中学校児童生徒に一人一台のタブレットPC配備が実現したこと。本町は、平成29年度から郡内の先陣を切ってICT教育機器を導入しながら組織的に推し進めて参りました。AIと情報化をキーワードとした未来社会「ソサエティ5.0」を生き抜く子どもたちを育んで行くことは、学校教育の大きな課題です。

このコロナ禍を乗り越えるため、今こそ学校教育・社会教育がその役割を果たすべき時ではないかと考えます。今後とも皆様との協働による夢と希望あふれる、文教の町・甲佐の教育づくりに、深いご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

